

相馬御風  
生誕140年  
140th Anniversary

御風  
の  
さん  
四季折々  
No.9

8月はまとまった雨が降らない日が続き、新潟県内は渇水で農作物の被害が大きく、深刻な状況となりました。自然を相手にするのは本当に大変なことです。今月は秋の収穫期の御風さんを紹介します。

### 「収穫へのまなざし」

昔は農業技術や天気予報も未熟、品種の問題もあり、毎年の農作物の収穫が今よりもっともっと大きな心配事、関心事でした。特に米は国民の主食、エネルギー源ですので、人々の思い入れもひとしおです。

秋風が稲穂の香りを運び、御風さんが目を細めます。思いを「糸魚川小唄」に込めます。

ヨホイヨホイで盆の夜が更ける  
稲は満作穂に穂が下る  
唄の文句は細谷川で  
鶯の声ほのぼのと

「穂に穂が下る」「細谷川で鶯の声ほのぼの」は、この地方で古くから伝わる盆踊唄「ヨーホイ」の歌詞にも見られます。

盆にウグイス?と疑問がわきます。ほかの地域では春の田植唄にも使われたフレーズですが、秋の歌詞にウグイスをもってきたのは、御風さんが出したなぞなぞですね。

白馬しまけば里には霞  
海は高波能登さえ見えぬ  
柑子蜜柑の色づく頃は  
濡らすまいぞえ稲架の稲

※白馬…白馬岳 しまけば…風巻けば

押上から横町まで広い砂浜があった時代には、刈穂を干す稲架が連なっている光景がありました。せっかく干したのに突然の雨で濡れては苦労も水の泡。農家では天候の急変にも対応できる心と体の準備ができていました。

柑子蜜柑は上刈みかんのことで、実が色づく頃には不意の雨が来るから特に注意しようという農家の知恵が表れています。

御風さん、収穫を有難くうれしく思い、稲架と陽のぬくみを浴び、しみじみと詠みます。

浜坂ぎはの 稲架にうけたる 日をぬくみ  
寄りてを浴びぬ そのぬくき日を

※「まま」は傾斜地を表す古語が方言化したもの

次号へつづく >>

たくさんのご応募ありがとうございました。

### 御風さんぬりえ コンテスト2023 入賞作品発表 \*

応募総数356件の中から、5作品を入賞作品として決定いたしました。



Akarunagi



マーキー



卵かけごはん



なつ子 8さい



スイカ ツキ

### 個性豊かな御風さんに会える! 御風さんぬりえ展示スケジュール

- 糸魚川歴史民俗資料館 (入賞5作品) 10月1日@まで
  - ビーチホールまがたま (全作品) 10月7日@~9日@・@
- \* 相馬御風生誕140年記念作品展で展示

問合先 文化振興課 文化行政係 ☎552-1511

総人口	39,127(-64)
男性	19,171(-27)
女性	19,956(-37)
転入	68
転出	66
出生	11
死亡	77
世帯数	17,145(-7)



糸魚川市  
ホームページ



株式会社ホープが運営するアプリケーション「マチイロ」をスマートフォンなどにダウンロードすることで、いつでもどこでも広報紙を読むことができます。